

みなさん、おはようございます。

今年度より、麻溝台高校の校長として着任しました 後藤 と申します。麻溝台高校は、学習はもとより部活動や様々な行事に積極的かつ意欲的に携わる生徒が多いと聞いています。

さらに皆さんにとってより良い麻溝台高校となるよう全力を尽くしたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

毎回の校長講話では、テーマを絞ってお話ししたいと思います。

麻溝台高校は今年で創立 45 年目を迎えます。今までの 44 年間は素晴らしい麻溝台高校の伝統が引き継がれてきたと思っていますので、今回は、「伝統」についてお話ししたいと思います。

「伝統」と似た言葉に「伝承」という言葉があります。昔からの言い伝えを、そのまま言葉で伝えていくことをいうそうです。「昔はこんなことがあった。」ということ語り伝えていくことなので、現状は昔と全く異なってもかまわないわけです。

ところが、「伝統」を守ることは、過去と同じ状態を現在も保っていることが必要です。**「伝統とは挑戦なり」**という言葉聞いたことがあります。少し違和感がありますが、よく考えてみると、昔と同じ状態のままにいるということは並大抵ではないことに気が付きます。

スポーツ界では野球のイチロー選手やスキージャンプの葛西選手は、40 歳を超えても一流の選手として活躍しています。個人で活躍し続けることですら非常に困難なことであるのに、団体やチームが長い間ずっと活躍し続けることはさらに難しいことだということは明らかです。

同様に、部活や学校において伝統を守るということは、メンバーも変わり、時代の要請も変わっていく中で、かつてと同じ状態を保つことは大変な努力が必要であることは容易に想像できます。

「伝統とは挑戦なり」という言葉は、「いつまでも昔と同じことをやっているだけでは、伝統は守れない」、つまり、「現状維持すら難しい」ということを伝えているのだらうと思います。

明日には、皆さんの下級生が入学します。「麻高」の持つ素晴らしい伝統を継承していくために、皆さんには何ができるでしょうか。少なくとも、「毎年同じことをやっていれば大丈夫」と考えていたのでは、「伝統は守れない」と思います。

そして、少しずつ新しいことに「挑戦」し続けることが大切だと思います。

以上で、校長講話を終わります。